

十勝川千代田実験水路運営準備委員会 NEWS【第5号】

第5回（最終）十勝川千代田実験水路運営準備委員会が3/10に開催されました。

帯広開発建設部では、十勝川千代田新水路に設置される『十勝川千代田実験水路』の運営・準備に当たり、「十勝川千代田実験水路運営準備委員会」を設置し、実験水路の技術的検討を行い、提言をいただくこととしています。

その第5回（最終）委員会が、札幌において下記の内容で開催されました。

【第5回委員会の開催日時等】

- ・委員会日時：平成17年3月10日
13:00～15:15
- ・開催場所：京王プラザホテル

第5回委員会は、委員8名（藤田委員が欠席）が出席したほか、報道関係1社の取材と一般傍聴者10名の参加がありました。

委員会では、第4回委員会までに助言のあった事項への対応及び実験水路計画に対して事務局から説明し、下記の議題に対して最終的な意見交換が行われました。また、その後委員会報告書の内容が検討されました。

【第5回委員会の議題】

- (1) 『第4回委員会』の発言要旨
- (2) 研究テーマと年度別
スケジュール（確認）
- (3) 実験内容と条件（案）
- (4) 予備実験（確認）
- (5) 観測施設（確認）
- (6) 運営方法と委員会（確認）
- (7) 共同・活用研究（確認）
- (8) その他

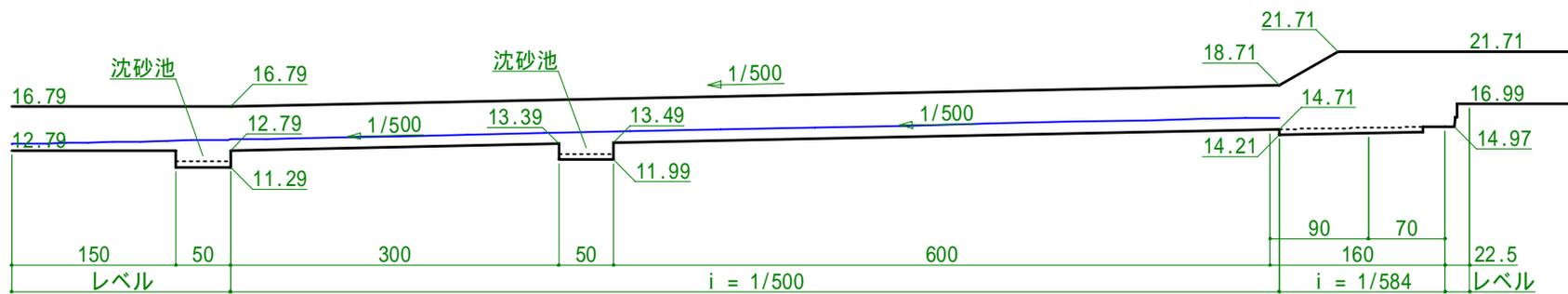
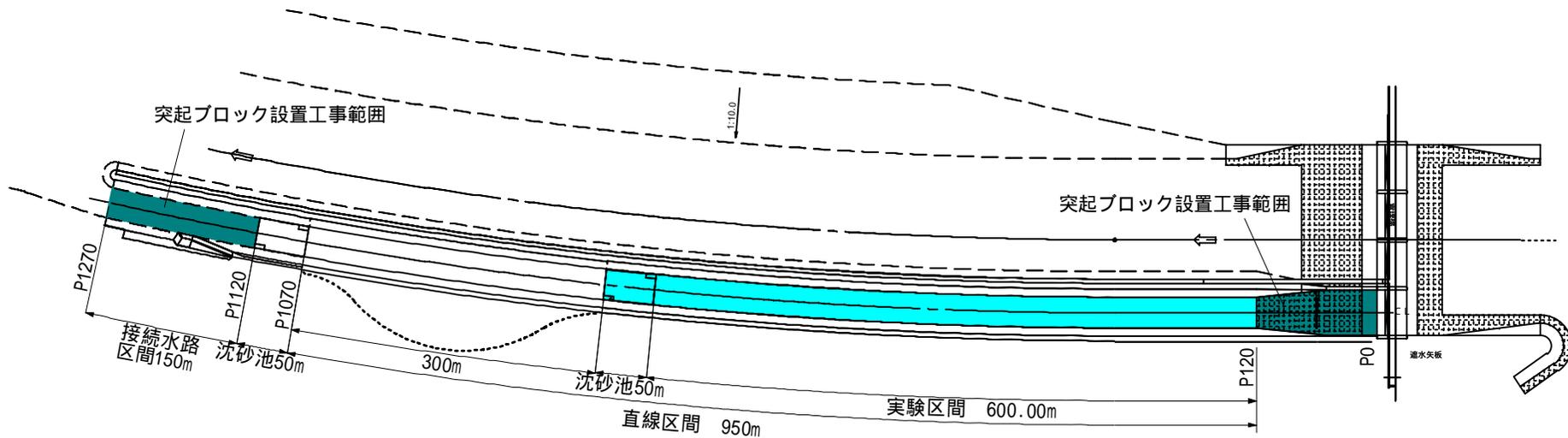


写真-1 第5回委員会の様子
第5回 十勝川千代田実験水路運営準備委員会名簿
(平成17年3月10日)

区分	氏名	所属
委員	泉 典洋	東北大学大学院 工学研究科 助教授
委員長	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 助教授
委員 (代理)	末次 忠司 (坂野 章)	国土技術政策総合研究所 河川研究室 室長(主任研究官)
委員	戸田 祐嗣	名古屋大学大学院 工学研究科 講師
"	中津川 誠	北海道開発土木研究所 環境水工部 環境研究室 室長
"	長谷川和義	北海道大学大学院 工学研究科 教授
委員 (代理)	原 俊哉 (石塚宗司)	北海道開発局 建設部 河川計画課 河川企画官(課長補佐)
委員 (欠席)	藤田 光一	国土技術政策総合研究所 環境研究部 河川環境研究室 室長
委員	渡邊 康玄	北海道開発土木研究所 環境水工部 河川研究室 室長

(敬称略、五十音順)

実験水路基本計画（案）イメージ図



第5回十勝川千代田実験水路運営準備委員会では次のような意見が出されました。

【年度別スケジュールについて】

いまさらですが、去年の洪水を考えると、破堤実験のニーズが高いと思います。それが、後年次になっていて良いのでしょうか。

北陸の水害で越水しても破堤しない堤防がありました。破堤実験は後年次となっておりますが、場合によっては変更可能なのですか。破堤実験を前年次にすることは可能ですか。堤防に関しては、かなり関心があります。全国的な課題・テーマであり、これからは堤防強化が問題になると思います。可能であれば、早く実施して欲しい。水理講演会でも議論になっていましたが、堤防の中身は歴史的な背景、いままでの経歴が重要であり、何を調査すべきか詰めておかないと、意味のない実験になってしまいます。可能であれば、なるべく早く実施する方向で考えるべきだと思います。

行政で堤防点検を実施しているが、時期を逸するとあまり意味のないものになってしまいます。行政の動きに合わせて、実施する必要があります。

【破堤実験について】

予備実験で破堤実験を実施するので、もう少し実験内容を充実させて欲しい。もう少し、工夫して破堤予備実験をやって欲しい。

堤防の実験を前倒しで行う場合は、材料、締め固め程度、形状等、かなり多い組み合わせケースがあります。全てを、この実験水路で行うことは不可能ですので、実験をかなり絞る必要があります。国総研では、来年から破堤研究を実施して、5年後にマニュアルを作る予定です。定量的にまとめることを求められていますが、なかなか難しい。また、二次元実験であり、この実験水路でのような三次元的なものは考えていません。この実験水路での実験もかなり限定された条件となるので難しいと思います。国総研のこれからの実験を踏まえてやっていくことも考えたらいかがでしょうか。

国総研の実験が終わってからの5年後が良いのでは。それとも、情報交換しながら、同時期にやるかですか。

【実験の成果について】

スケジュールの様にうまく行かないかもしれません。ベルトコンベアー式に成果を上げるのは、難しいと思います。

【運営方法と委員会について】

実験検討会の位置付けが良くわかりません。また、活用研究する人は、基本ルールについては適用されないと思います。活用研究の場合は、この基本ルールに乗らないのではないですか。

いままでの意見に対して整理したと思いますが、結構複雑だと思います。もう少しシンプルにした方が良いとの意見もあります。

【共同・活用研究について】

共同研究での測定項目が多い場合には、負担してもらえないでしょうか。
基本実験を進める時に、相手先に大学やその他の研究機関がありますが、相手先との調整が必要だと思います。

今 後 の 予 定

十勝川千代田実験水路運営準備委員会は、今回をもって完了とさせていただきます。
本委員会の内容は、取りまとめを行い『(仮称)十勝川千代田実験水路に関する報告書』
として、帯広開発建設部のHPで発表いたします。